

2023 年 5 月 11 日

2023 年 3 月期 決算の発表について

昭和産業株式会社（社長：塚越英行）の 2023 年 3 月期連結決算は、売上高 335,053 百万円、経常利益 6,525 百万円となりました。2024 年 3 月期連結業績予想については、売上高 360,000 百万円、経常利益 8,600 百万円を見込んでおります。

【2023 年 3 月期連結決算】

当連結会計年度の我が国経済は、新型コロナウイルス感染症による行動制限の段階的な緩和が進んだことにより経済・社会活動が正常化に向かい、景気は持ち直しの傾向が続きました。

しかしながら、原料穀物相場は、2022 年度前半の急騰、その後の激しい値動きの状況からは徐々に落ち着きを取り戻しているものの、依然として高値圏で推移しております。またウクライナ情勢の長期化に加え、為替相場の急激な変動やエネルギーコストの上昇など、経営環境は厳しい状況が続きました。

このような状況の中、当社は創立 90 周年を迎える 2025 年度のありたい姿（長期ビジョン）「SHOWA Next Stage for 2025」の実現に向けた 2nd Stage「中期経営計画 20-22」の最終年度を迎え、5つの基本戦略「①基盤事業の強化」「②事業領域の拡大」「③社会的課題解決への貢献」「④プラットフォームの再構築」「⑤ステークホルダーエンゲージメントの強化」の各施策を着実に推進してまいりました。

当連結会計年度では、「①基盤事業の強化」において、プレミックス事業を発展・進化させるための基幹工場として船橋工場内に「船橋プレミックス第 2 工場」を新設し、昨年 6 月より操業を開始いたしました。また、昨年 8 月には油脂食品・糖質事業において、より一層の製品供給の安定化、コスト低減、付加価値向上を目的に、辻製油株式会社と業務提携を発表し、両社の持つ経営資源を有効活用することで、競争力を強化してまいりました。

「③社会的課題解決への貢献」では、「昭和産業グループ 環境目標」を設定いたしました。CO2 排出量 46%以上削減（グループ全体 2030 年度目標、対 2013 年度）、食品ロス 30%以上削減（昭和産業および食品ロス発生量が 100 t/年以上のグループ会社 6 社 2025 年度目標、対 2018 年度）、水使用量原単位 12%以上削減（グループ全体 2030 年度目標、対 2019 年度）の実現を目指してまいりました。

当連結会計年度の経営成績は、連結売上高が 335,053 百万円と前年同期に比べ 47,418 百万円（16.5%）の増収となりました。営業利益は 4,184 百万円と前年同期に比べ 1,380 百万円（24.8%）の減益、経常利益は 6,525 百万円と前年同期に比べ 50 百万円（0.8%）の減益、親会社株主に帰属する当期純利益は 7,776 百万円と前年同期に比べ 3,769 百万円（94.1%）の増益となりました。

【2024 年 3 月期連結業績予想】

2024 年 3 月期の業績は、連結売上高 3,600 億円、連結営業利益 75 億円、連結経常利益 86 億円、親会社株主に帰属する当期純利益 55 億円を見込んでおります。

<本件に関する報道関係の方のお問い合わせ先>

昭和産業株式会社 企画部コーポレート・コミュニケーション室

TEL：03-3257-2042 担当：赤松、塩谷